

静岡大学 同窓会 会報

No. 28

発行所
静岡大学理学部同窓会
静岡市駿河区大谷836
静岡大学理学部内
TEL.054-237-1111(代)
会長 浅野 安人

理学部近況 十大学近況

(2013年)

理学部長 増田 俊明



もうすぐ理学部は大きく変わります。いちばんの変わり方は教員の所属です。なんと、2013年4月から、すべての理学部教員は理学研究科の教員になってしまいます。つまり、理学部には先生がいなくなってしまうのです。

なんのこつやら。理学部と理学研究科の実体はほとんど変わりません。今も、理学部長が理学研究科長を兼務することになっていて、それが、理学研究科長が理学部長を兼務することになるだけです。ちよつとややこしいですが、大した違いはないのです。大学の改革とは、こういうことなのだと思つて下さい。(こんな事書いて良いのか...) 理学研究科は5つの専攻(数学専攻、物理学専攻、化学専攻、生物科学専攻、地球科学専攻)から成り立っております。大学院では学科という言葉は使いたしません。専攻と称しているだけです。さて、昨今のいろいろな事情(逆風)で、理学研究科を大きく変えようという怪しい動きがあります。それは、理学研究科を1専攻にして、理学専攻という名称にするという案です。5つを1つにするなんて、すごい大改革じゃないか、と思つた方はどうも素直な良い方だと思つた。これまで理学研究科には5つの扉がありました。こんどは1つの扉にしようというので、知らない人が見たら、ものすごい改革のように見えると思つた。

でも本当は、あまり変わらないという、不思議な改革案です。新しい理学研究科のたつた1つの扉を開けたら、中に5つの扉があつて、そこには数学コース、物理学コース、化学コース、生物科学コース、地球科学コース、という看板が掛つてある、というのが基本設計です。つまり二重構造にただけ、というのが手品の種明かしです。こんな様な大改革が来年に現実化しているかどうか、興味津々です。ご期待下さい。

変わるのにあんまり変わらない話が続きましたので、2013年3月には理学部から4名の教授が退職されます。生物科学科の塩井祐三先生、地球科学科の狩野謙一先生、里村幹夫先生、鈴木敏先生です。特に地球科学は3名の教授がいっぺんに退職されます。これに追い打ちをかけるように、2012年3月にはサテイツシユ准教授が新潟大学に転出、同じく9月には林教授が京都大学に転出してしまひ、異常事態となつております。そのために補充人事は大忙しで、一段落した後には平均年齢が相当若返ることになります。なお、

教授1名分は補充できません。これは、大学の予算が快調に減らされているおかげ(皮肉)です。静岡キャンパスにグリーン科学研究所というのができます。それに伴い、いろいろな学内人事交換(?)が発生しております。ここで簡単に説明できないほどの複雑さです。大雑把に言いますと、理学部に入ってくる先生が3名、出て行く先生が3名、あれ、同じか? あと2名追加。え? &\$O\Delta\times\Delta\cdot\cdot\cdot 私も混乱しております。この件は落ち着いたらまた報告します。

一昨年の学部長選挙で私が当選した際に、私は「町内会のゴミ出し当番選挙」という、何とも変な表現をして響(ひんしゆく、と読む)を買いました。ワープロとは便利な物で、こんな難しい漢字、私は書けません。それはともかく、2年近く学部長をやつていて、と、やっぱり「学部長はゴミ出し当番」という表現は正しかったと思つた。ゴミ出しばかりやつていて嫌気が指しきましますので、一発おもしろいことをやつて理学部を活性化したいという思いに駆られました。そこで私が画策したのが、学生を最先端の外国の大学に派遣して、今後の自分の研究のプラスにする、というイベントです。5名のM1院生(各専攻1名)を派

静岡大学サポーターズクラブ発足!

静岡大学未来創成基金、寄附金の募集

戦後「新制大学」が誕生して64年、その卒業生は60期を迎えることとなります。卒業生誕生60周年を記念して、文理・人文学部(含法経短大)、工学部・情報学部、教育学部、農学部および理学部の首都圏同窓が集まる「静岡大学全学同窓会(東京地区) 講演会・演奏会・懇親会」が開催されます。

理学部は首都圏に同窓会支部はありませんが、この集まりを機に東京支部設立を目指しております。首都圏同窓と大学および同窓生相互の交流を促進し、「自由啓発・未来創成」の大学ビジョンを、同窓生により

遣します。3月初旬にアメリカのボストンを訪れ、MITとハーバード大学を見学してもらいます。研究室に入り込んだり、図書館をぐるぐる回ったり、ドーナツ屋で休憩してもらつてキャンパスライフを楽しんで来て、大いに刺激を受けて帰つてきて欲しい、という魂胆です。MITで2年研究していた若手の教員に、添乗員風と一緒に行動してもらいます。この原稿の締め切りが2月末なので、ホントにポストン行きが実現したかどうかはわからないのですが、順調ならもう帰つてきているはず。これほどのような効果を現すのがわかりませんが、実際に投入する資金は、理学部の1年分の大型ゴミを廃棄するのと同額です(ほんとうにゴミ出しもやつている!)。このイベントを実現するのいろいろな人を巻き込みましたが、いちばん被害(?)を受けたのは今年度退職される松村事務局長です。大変な作業をしてもらいました。どちらかというと、私は勝手なことを言つただけで、後は事務局長が段取りをしてくれた、というのが裏話です。でも学生十先生がもつと元気になる、という気持ち、私は事務局長と同じくらい持っているつもりなので、まっぴい。

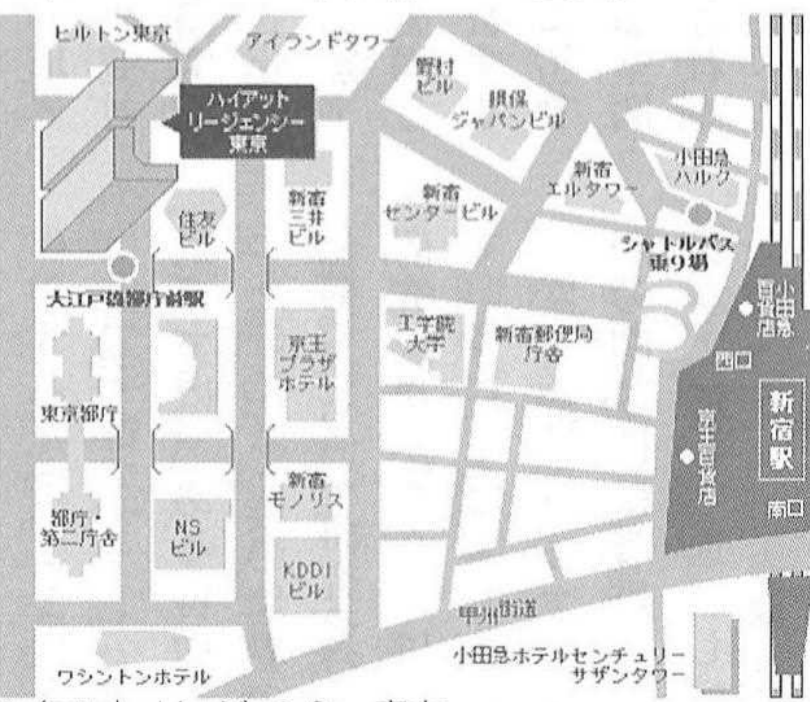
増田俊明 理学部長

静岡大学全学同窓会 (東京地区) 講演会・演奏会・懇親会の開催案内

日時 2013年5月25日(土)15:00~
会場 ハイアット・リージェンシー 東京(新宿)

スケジュール
15:00 開会
15:00 主催者挨拶
15:10 実行委員長 伊東幸宏 静岡大学学長
15:30 講演会 「はやぶさの挑戦」 川口淳一郎 JAXA 教授
16:35 演奏会 藤原真理子氏 (東京地区) 実行委員会 共催・静岡大学
17:00 懇親会(19:00) 静大OBグループ合唱・歌唱指導等

主催・静岡大学全学同窓会 (東京地区) 実行委員会 共催・静岡大学
申込方法・申込先
理学部同窓会事務局
social@ipc.shizuoka.ac.jp
件名:2013全学同窓会参加申込
本文・氏名 学科 連絡先(住所)又は E-mail アドレス)
申込締切日:2013年3月31日(二次)
※注1:申込者多数の場合、申込み先着順となることご了承ください(特に、無料参加者)。
注2:申込受付および参加費振込方法等は4月中旬に、参加者連絡先へお知らせします。



第8回理学同窓会 総会・懇親会開催のご案内

11月下旬に開催されます 静岡地区静大祭に合わせ、理学同窓会の総会を開催します。
日時 成25年11月16日(土) 13時より
会場 理学部A棟2階 大会議室(A209)
総会 13:00~14:00
議題 ①役員改選②静岡大学サポーターズクラブへの協力について
科学講演会 14:00~15:30
ホームカミングデイに併せて、科学講演会を予定しています。詳細は、同窓会のHPに掲載します。
懇親会 16:00~17:30
会費1000円

左記年度の会員の皆様方は、ぜひご参加ください。
平成20年度、平成15年度、平成5年度、昭和58年度、昭和48年度
理学同窓会は、各卒業年度の同窓会開催のお手伝いをします。下記の同窓会事務局までご連絡ください。
静岡大学理学同窓会事務局
E-mail: social@ipc.shizuoka.ac.jp
http://www.sci.shizuoka.ac.jp/alumni/index.html

退任教員 からの挨拶

地球科学科

教授 里村幹夫

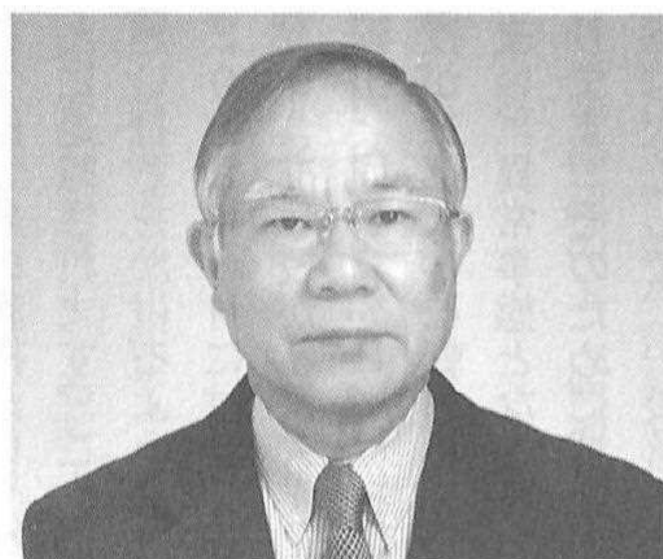


静岡大学に来て34年になりました。人生の大半を静岡大学で過ごしました。とても充実した楽しい時間でした。

私が大学1、2年生の時に、長野県で松代群発地震が起こりました。当時の松代町長さんが、どういう支援がほしいかと聞かれたとき、地震学の進歩がほしいという意味の回答をされたという記憶があります。私が入った大学では、3年生に進学するときに学科を選ぶシステムだったので、地震に関係した研究をやりたいと思いい、地球物理学科を選びました。地震予知に関係した研究をしたいと思い、地殻変動を研究のテーマに選びました。地震予知につながるような地殻変動の研究は、本当に小さな変動を調べないといけないので、地道に精密なデータを取る必要があります。その中で比較的測定が楽な重力の時間変化から地殻変動を調べようというのが、私が大学院生時代にやった研究テーマでした。

生物科学科

塩井 祐三



『研究室の40年の変遷』

研究室に古ぼけた手動のタイプライターが残っている。これは私の大学院時代に物語るものである。私が修士課程に入学したのは1970年で、それまで激しかった学園紛争も大分落ち着いた頃であった。そんな中で、今思うと若さも有り、楽しかった。先生より与えられた研究テーマは「緑色光合成細菌の電子伝達系の解析」で、毎日のように光合成細菌の培養と格闘していた。この時に先生方から薫陶を受けたことがその後の進路や今日まで研究者として続けてこられた基礎であり原点となっている。素晴らしい恩師に巡り合えたことを今でも深く感謝している。

現在の研究室の学生の机には、ラップトップ(コンピュータ)、電子辞書そしてスマートフォンである。か。そして、インターネットではたどころに大抵の情報を手に入れられる。以前は紙媒体のみで、図書館が唯一の頼りであった。また、電子メールもなかった。すべて郵便での通信である。

今の若い人は、どんな論文を書くことが求められ、なかなか自分のやりたいことをゆつくりとやれない雰囲気を感じます。もつとのんびりと自由に研究や教育が進められるような静岡大学であってほしいと思います。

海外出張のため原稿がまにあいません。平成25年度も特任教授で大学に残らるので次号に原稿を書いていただきます。

地球科学科

教授 鈴木 款



海外出張のため原稿がまにあいません。平成25年度も特任教授で大学に残らるので次号に原稿を書いていただきます。

地球科学科

教授 狩野謙一



防災センターの特任教授で大学に残られます。原稿は次号に掲載させていただきます。

新任教員 からの挨拶

地球科学科

講師 石橋 秀巳

(いしばし ひでみ)

九州大学大学院理学府地球科学専攻博士後期課程修了

【博士(理学)取得】

【職歴】2007年4月

京都大学大学院理学研究科

附属地球熱学研究施設研究

機関研究員、2008年6

月



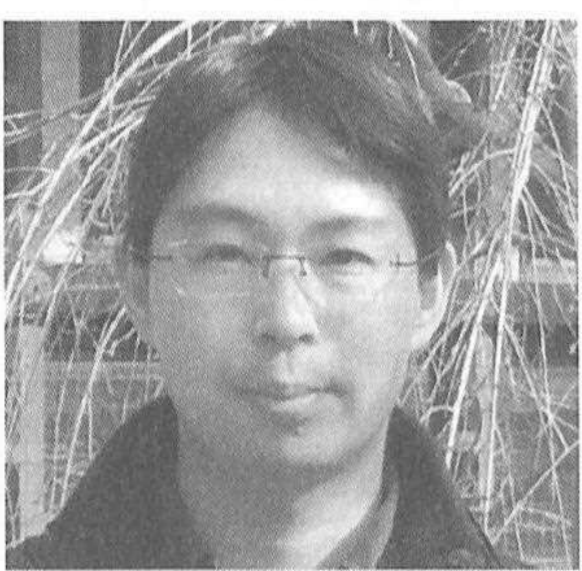
特任研究員を経て、2012年8月から静岡大学理学部地球科学科講師
■専門分野 岩石学、鉱物学、マグマ物性、火山学。
主に火成岩の観察・分析および高温実験に基づき、マグマの物性や形成・噴火プロセスに関する研究に取り組んでいます。今後、富士山や伊豆の火山についても研究を進めていきたいと考えています。

■趣味 鉱物標本収集
■近況 着任して半年余りが経過し、ようやく静大にも馴染んできました。近頃は学内某所から眺められる富士山の景色を気に入っています。まだ、はじめてで戸惑うことも多々ありますが、教員としての勤めをきちんと果たせるよう努力していきたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

研究紹介

CAT(0)空間とその等長変換群およびCoxeter群

数学科 保坂哲也



静岡大学に移ってから1年と半年が過ぎようとしております。今年、研究室では4名の卒業生を送ることができ、内1名は大学院に進学し、3名は就職に就職が決まりました。最近、少しずつ理学部の様子が分か

を研究の主な目的としております。測地線空間上の三角形をユークリッド平面(曲率0の平坦な空間)の三角形と比較して、より内側に曲がっていることをみることに、非正の曲率をもつ空間の定式化を行うことができます。このような空間をCAT(0)空間とよびます。例えば、ユークリッド空間や、双曲空間、また、非正の断面曲率をもつ基本群の消えているリーマン多様体などは、その例ですが、CAT(0)空間は、測地線の三角形の比較のみで定義されているため、そのクラスは幅広く豊かで、非常に複雑なワイルドな空間も含むのが特徴です。非有界なProper CAT(0)空間は、「境界」とよばれるコンパクト距離空間を付け加えることによりコンパクト化され、CAT(0)空間およびその境界は、非常に興味深い研究対象であり、私の主な研究対象です。負曲率の定式化としては、Gromov hyperbolic空間が有名で、その場合も「境界」が定義されますが、Gromov hyperbolicでありかつCAT(0)である空間のそれぞれから定義される境界は、一致します。

また、Coxeter群という群とDavis複体とよばれるCAT(0)空間の研究も行っています。Coxeter群はDavis複体とよばれるCAT(0)空間に幾何学的な構造とCAT(0)群の代数的な構造の間の関係を探るのが私の研究の目的のひとつです。

最近では、ある特徴を持ったCoxeter群の境界の位置相構造について研究を行い、研究成果が得られはじめています。また、Coxeter群とグラフ理論の間の関連性に着目した研究が、最近、進展ははじめています。

第13クール

平成24年4月19日(木) 18:00~19:30

【第63話】 「きょうだい」はなぜ違う？〜生物多様性を生み出す遺伝のメカニズム〜

山本 歩 (化学科)

同じ親から生まれたにも関わらず、「きょうだい」はどこか違います。この「違い」を生み出す遺伝のメカニズムについて、細胞内

サイエンスカフェ in 静岡

第14クール

平成24年5月24日(木) 18:00~19:30

【第64話】 「超弦理論で解き明かす宇宙誕生の謎」

土屋麻人 (物理学科)

宇宙はどのように始まったのか。私たちは

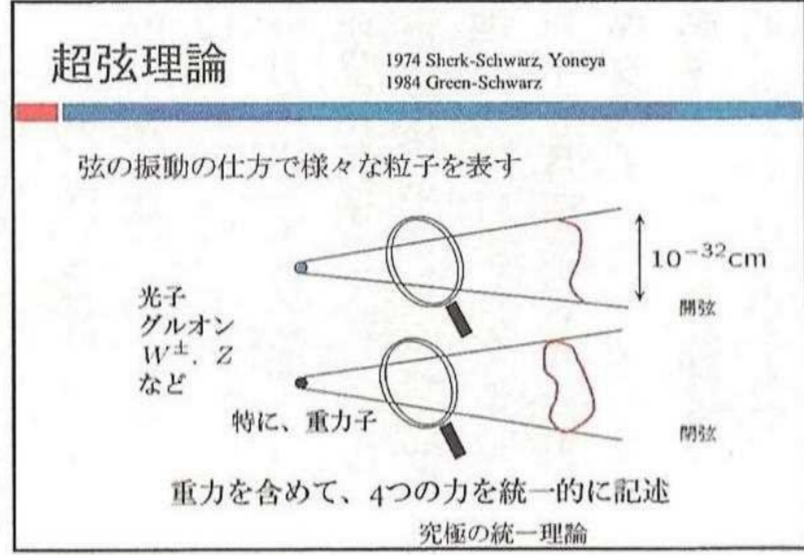
「静岡平野における津波堆積物の調査」

北村晃寿 (地球科学科)

東北地方太平洋沖地震を教訓に、私は、静岡平野の地層に残された「津波堆積物」から、静岡を襲った「最大クラス」の津波の「規模」

何故「弦」なのか？

重力以外の3つの力(電磁気力、強い力、弱い力)の場合 場の量子論 素粒子を大きな「点」として記述 光子 計算過程で生じる発散の問題(繰り込み理論(繰り込み)で処理) 電子 重力の場合 発散の度合いがひどく、「繰り込み」で処理しきれない 点ではなく線(ひも)をもった弦(ひも)を考えれば、有限になる 超弦理論 (数々の理論を作るために、繰り込みを導入)



なぜ3次元の空間に住んでいるのか。皆さんが抱くこうした素朴な疑問に答えるために、ものの最小単位を「弦(ひも)」とする超弦理論でビッグバン以前の宇宙を探ります。

平成24年6月21日(木) 18:00~19:30

【第65話】 「静岡川!!自然エネルギーの地産地消」

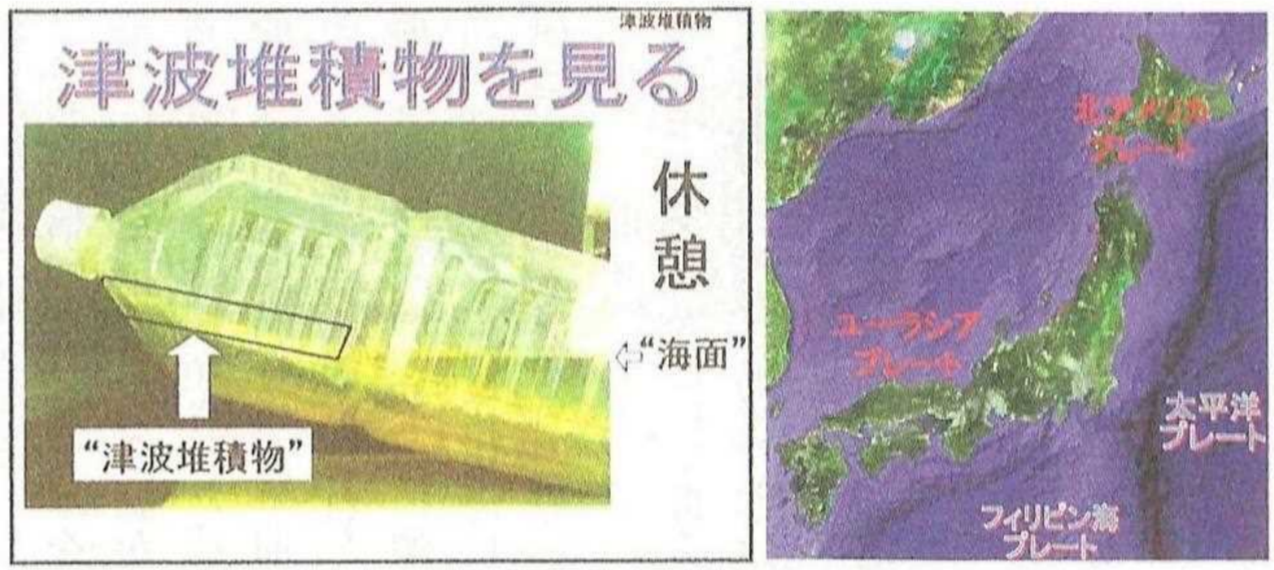
木村浩之 (地球科学科)

静岡県中西部は付加帯という厚い堆積層からなり、その地下深部にはメタンや水素ガスを生成する有益な最近がたくさん生息しています。このような地下圏の微生物を利用した新規のエネルギー生産について、地球科学と微生物学の観点からお話します。

平成24年7月19日(木) 18:00~19:30

【第66話】 「バイオ燃料は世界を救う?」

「バイオ燃料は世界を救う?」 粟井光一郎 (静岡大学若手グループA 研究リーダー) 育成拠点 昨今のエネルギー問題、地球温暖化問題から循環型エネルギーに注目が集まっています。その一つであるバイオ燃料は有力な解決策となりえるのか。藻類を用いたバイオディーゼル生産の基礎研究の観点から、その夢と現実について議論します。



平成24年9月27日(木) 18:00~19:30

【第68話】 「酵素を人工的に進化させる」

河原崎泰昌 (静岡県立大学食品栄養科学部) 酵素は体内で消化吸収などに携わっていますが、食品加工などの産業用途にも広く使われます。最近、酵素を実験室内で「進化」させ、特定の産業用途に適した「新種」を創れるようになってきましたので、技術的な側面から紹介したいと思います。

第15クール

平成24年10月18日(木) 18:00~19:30

【第69話】 「『ちきゅう』が明らかにする地球の歴史」

倉本真一 (海洋研究開発機構(JAMSTEC)地球深部探査センター)

「ちきゅう」が明らかにする地球の歴史。奇跡のバランスと称される46億年の地球の歴史は、宇宙の進化の歴史でもあり、また生命の進化の歴史でもあります。その一部は今でも地球の内部から取り出すことができます。それを行

平成24年11月22日(木) 18:00~19:30

【第70話】 「ポストゲノム時代のデータマイニング」

石原顕紀 (生物科学科) 様々な生物種で全ゲノム配列が決定されてきています。莫大な配列情報、それに付随する実験データをどう取り扱うか。ヒトの脳で処理することのできない膨大な実験データをヒト寄りに「マインニング」するバイオインフォマティクス的一端について紹介したいと思います。

平成25年1月31日(木) 18:00~19:30

【第72話】 「神の粒子ヒッグス」

青山昭五 (物理学科) ヒッグス粒子の発見に挑んだヨーロッパ原子核研究機構(CERN)ジュネーブの大型ハドロン衝突加速器(LHC)の実験について現況レポートをします。ヒッグス粒子による素粒子の質量生成の超伝導メカニズムと小林一益理論のCPT対称性の破れを解説します。

平成24年12月13日(木) 18:00~19:30

【第71話】 「カプセル分子を用いた有害イオンの除去」

近藤 満 (機器分析センター) 過塩素酸イオンや硝酸イオンは乳幼児に対して毒性が高い陰イオンですが、水溶液からの除去が困難なことで知られています。金属イオンと有機化合物から合成されるカプセル分子を利用した、これらの高溶解性陰イオンの新しい除去方法について紹介いたします。

平成25年2月21日(木) 18:00~19:30

【第73話】 「連続体仮説の過去・現在・未来」

依岡輝幸 (数学科) 「実数はいくつあるか？」という素朴な疑問から誕生した連続体仮説は数学の公理系から証明も反証もできません。いったいどういふことでしょうか？対角線論法、不完全性定理、強制法など盛りだくさんの内容を

平成25年3月21日(木) 18:00~19:30

【第74話】 「究極の小型スイッチ『原子トロンジスタ』」

田部道晴 (電子工学研究所) 私たちは普段、ケイタイなどの電子機器を当たり前のように使っていますが、その中の主要部品である「トロンジスタ」を意識することはほとんどありません。しかし、このトロンジスタは小型化が進み、とうとう1個の原子がその特性を決めようとしています。この原子トロンジスタの挑戦についてお話しします。

平成25年4月18日(木) 18:00~19:30

【第75話】 「マグマ―その物性と火山噴火について」

石橋秀巳 (地球科学科) マグマとは岩石が溶けて生じる流体で、これが地表に吹き出す現象が火山噴火です。このマグマとは、どのような性質を持つ物質なのか？ マグマの物性が火山噴火に及ぼす影響は？最近の実験の成果をふまえて紹介いたします。

Science Cafe in Shizuoka 2012-2013 サイエンスカフェ in 静岡. Includes a list of past events and dates.

科学講演会 人工地震で地下を見る. 生田領野 (地球科学科・助教) 2012年11月17日14:00~15:20. Includes details about the lecture and a poster for the event.

理学同窓会 寄付講義

(於 理B203室)

今年度は、生物学科、地球科学科、化学科の卒業生6人の講師を招いて開催されました。講師は、女性と男性、年齢は30代から50代、職種は管理職から教育・研究職など、勤務先は民間企業から公的機関と、広く各界の第一線で活躍の方々です。

第1回

5月17日(木) 16:05~17:35
八木基紀氏

(平成12年3月理学部生物地球環境科学科卒業 平成14年3月理学研究科生物地球環境科学専攻修了)
所属 日本技術士会準会員(所属部門 物工学部門)

内容

企業内の技術者として働いています。技術者として入社しましたが、組織変更に伴い、事務、開発と担当を変更してきました。思い描いていた自分とのギャップを感じ、この先自分が技術者としてどうしていったらいいのか、そして技術者として何が必要とされるのかを考えてきました。企業が利益の獲得を目的とするところから、企業での開発はアカデミックでの研究と異なる点があります。商品開発を行うにあたり開発期間、コスト、安全性など様々な面を考慮しなくてはなりません。さらに技術者として業務を行う上で倫理や、特許権・著作権といった知的財産権などにも対応していかなくてはなりません。技術者として、それらにどう対応していくのか、どう考えていくのかを私なりの考え、仕事を通じて学んだことや体験を「紹介したい」と思います。

聴講生感想文

中谷由佳 生物科学専攻
失敗は成功の源とはよく言ったもので、八木さんの講義のとおり失敗から学ぶことが多いのは間違いない。私が日々行っている作業はまさにP D C Aサイクルそのもの。P D C A実験計画を立て、D O O実験を行い、Check・実験結果を見て、Act・考察・改善していく。今回の講義を受けて、学生時代に行っている事は、技術面・一連の流れで物事を考える力を育てる上でとても有用だと感じた。

つまり就職活動について考えるとてもよい機会になりました。自分の院生活を振り返ってみると、やはりいくらか学生という身分に甘えていたところがあると思います。自らに課せられた責任が他人に及ぶこととはないと考え、徹夜をして期限ぎりぎりに間に合わせることも多々ありました。講義中、社会人と学生が違うところとして、「個人の目標ではなくチームの中での目標が重要であり、自分の仕事を管理する計画性が必要とされる」と聞き、自身の生活を猛省することも、院生の授業割がなぜ少ないのか納得することができました。今までは自分のペースで研究ができると喜んでいましたが、今後は自分のペースを管理することに意識して研究を行うつもりです。

また、「信頼されること」を信念に働いてきたという話から、研究室では信頼された状態から始まるという当たり前のことに気づき、この恵まれた環境に感謝しつつ、「その信頼を裏切らないこと」を信念に研究室でやってみようと思います。

院生は社会人として得る収入を投げ打って過ごしているの、そのことを日々自覚し、より貪欲に学んでゆきたいと思っています。

次に就職活動についてですが、自分はまだ就活を経験していませんが、「嘘をついたら地獄に行きますよ」という言葉には教職免許を目指し、教師になるという道も考えていました。自分が教育実習を経て、自分は教師に向いていないことがよくわかりました。例えば自分の心を偽って上手く教師になつたとしても、絶対に続かないだろうということが実習を通して一番学んだことです。この経験からも、就職活動では自己分析をきちんとしておきたいと考えています。

6月14日(木) 16:05~17:35
増川克典氏
(昭和62年3月理学部生物学科卒業 平成元年3月理学研究科生物科学専攻修了)
勤務先 花王株式会社・研究開発部門

私が携わってきた花王での基礎研究活動の事例紹介を通して、大学研究との共通点・相違点に触れた上で、社会がどんな人材を求めているのか、大学・大学院でどう過ごすべきかを述べたいと思います。

古田つゆみ 地球科学専攻
「花王」という企業は、今日のお話を聞いて、大変理想的な組織だと思いました。企業の研究室のイメージとしては、利益の追求がまずあって、基礎的な研究などには余力を入れているのではないかと感じました。しかし花王では、社員の3分の1が研究開発に携わるとのこと。真理の追求が研究部門の第一のゴール(？)であること。研究室の大部屋別、マトリックス運営、自己組織的(フラグビー型組織)運営など、私の固定概念とは少し離れた、大変スマートな組織だという印象を受けました。また、ご研究の内容もアカデミックで、最先端の技術・知識を駆使されており、うらやましいような環境の中での研究だと感じました。

理科系の学生の多くが企業で働いていると思いますが、狭き門です。お話をうかがって感じたのは、増川さんの研究に対する真摯な態度・人格・コミュニケーション能力などの人並み外れた能力が、望んだ仕事に就き、研究者としてやっという素質だと思いました。大学・大学院で学ぶ時間は人生の中ではほんの短い間ですが、社会人として生きるための根幹のところを、この期間に学ぶことができるかどうかにかかっていると思います。科学的な思考と一言で表わすのは簡単ですが、そこをあらゆる状況で実践し、理系の仕事に就く人にとってはうまくいかない事になるのでしよう。

個人的には、私は花王の商品を多く使っていることに気が付きました。私は皮膚が弱く、香料の強い化粧品などを使うとかがぶれてしまうのですが、花王の商品ではそういう経験がありません。お話をうかがった事から分かる、しっかりとた企業倫理、徹底した研究開発の一つ一つが、商品の安全性に現れていると思います。

7月5日(木) 16:05~17:35
近藤晃祥氏
(平成19年3月理学部生物地球環境科学科卒業)
勤務先 株式会社JTB中部 静岡支店 団体旅行(国内・海外)担当

遠足や修学旅行などに代表される「教育旅行」といわれるマーケットを担当しています。商売で生計を立てるとのこと。そして社会で生きるということ。そのどれも、私たち「人」が関わります。

どんな商品の先にもお客様があり、どんな商品も人の頭で考えられ創られます。人々の交流を創造する企業で働いて、社会人・旅行業界人6年目として感じることをざっくばらんにお伝えします。

たくさん学生の皆様と向き合えることを楽しみにしております。

岡崎元樹 化学専攻

どのような職種に就くか、というのは、本人の行動力に依るところが大きいと強く感じた。明るさや積極性を持つ人材を求めるとのこと。旅行業界というものがあつたと思ふ。ある専門分野に於いて自分が研究していたこと、培ってきたもの、それらが通用しない、あるいは強く求められることのない業種を目指そう、と考えたとき、頼みとなるのは、自身の人間的な魅力であると感じた。

近藤さんご自身も旅行業にもかかわらず英語が得意な点で十分魅きつけられるものがあるように思う。

自分自身にそんな魅力があるとはあまり考えられませんが、それを見つめ直して把握することも、幅広い職種を視野に就職活動するためには必要だと感じた。

7月12日(木) 16:05~17:35
渡辺裕美氏
(平成20年3月理学部化学科卒業 平成22年3月理学研究科化学専攻修了)
勤務先 株式会社エゴプロ。リサーチ

分析機関と言いますと、決められた手法(公定法)にのっとり作業をこなしていくイメージがあるかもしれませんが、確かに、食品の成分分析には公定法が定められているものがあり、これらは公定法に従って検査します。しかし、新規機能性食品など公定法が定められていないものも多く、検査法の確立を求められています。成分も多々存在します。更に、既知の成分でも食品が加工されていることにより、従来の公定法では分析が難しくなる場合もあり、これらに対応する為、分析業務は研究的側面を持ち合わせます。

本講義では分析に対する認識を分析に携わる者と顧客との考え方の隔たり等と絡めてご紹介いたします。又、社会に出て3年目と言ふことで、記憶に新しい就職活動の経験や、私の感じた学生と社会人との違いについてもお話出来たらと思います。

高川朋子 地球科学専攻
お茶の着味、着色の話をお茶を漬けるのは農家の人だけ、味つて化学だな、と思いました。

ポリフェノールはたくさん成分であることを初めて知りました。タンニン、カテキンなど、聞いたことがあつたが、ポリフェノールの成分だつたとは知りませんでした。

分析のお仕事について、今まで話を聞いたことがなかった。新鮮でした。いろいろな仕事があるのだな、と思いました。分析を依頼する一般のお客様で過敏そうなので、そのあたりの対応が大変そうだと思います。

人材紹介会社も今更ながら見てみようと思つきました。

7月19日(木) 16:05~17:35
上前洋二氏
(平成14年3月理学部生物地球環境科学科卒業 平成16年3月理学研究科生物地球環境科学専攻修了)
勤務先 セルメディン株式会社

静岡大学を卒業後、つくば市の理学化学研究所でベンチャーに勤めています。自分の仕事や他の研究機関の方との共同研究を通じて、現在の仕事に役立っていることをお話させて頂ければと思います。

小林小夏 地球科学専攻
生物や医学の知識があまりないので、とても勉強になりました。患者さんから抽出した

たガン組織を、ワクチンとして再び投与するという発想には驚きました。上前さんは、仕事をしながら夜は大学でドクターの勉強をされているということで、就職してからも学び続けることを忘れてはいけなさと改めて気付かされました。ベンチャー企業以外でもそうした姿勢は大切だと思ふので、努力を続けていかなければならないと感じました。私も今、就活をしていますが、専門性を生かした会社への就職はなかなか難しく、あきらめて他の業種を探そうか悩んでいました。もう少し粘ってみようという気持ちになりました。

貴重なお話ありがとうございました。

担当教員
理学部生物科学科
塩尻信義(理A611) 電話: 238-4780
理学部地球科学科
宗林留美(理C501) 電話: 238-4934

理学研究科の講義の一つとして、理学同窓会寄付講義が開講されています。この講義は、研究機関や企業・中高校等で活躍中の理学同窓会の会員により、企業や研究所、教育現場などで今何をしているのか、働く現場ではどのような人材が望まれているのか、また大学院・学部でどのようなことを学ぶべきかなど、在学中の経験を踏まえおおよそ60分から90分講演をしていただきます。後輩のために先輩としての貴重な経験談をしてくださる方を学科を問わず広く募集しています。理学同窓会事務局 (sciam@ipc.shizuoka.ac.jp) までご連絡ください。

理学同窓会寄付講義
II 講師募集 II

静岡大学 サポーターズクラブ発足!

静岡大学では、昨年、静岡大学サポーターズクラブ(SSC)を発足しました。静岡大学の身近な情報の発信や、サポーターの交流を進めて行く活動が行われます。会費無料です!ぜひ、

この際、ご入会ください。インターネットで「静岡大学サポーターズクラブ」を検索してください。学長の近況、静大生協限定のお酒など、静岡大学の情報が得られます。



毎日学生で賑わう生協パンショップ

静岡大学未来創成募金

静岡大学では「自由啓発」、「未来創成」のビジョンの下で、学生教育が行われていますが、その活動をより充実・発展させるため、静岡大学未来創成基金が発足しました。皆様からのご寄付を、ご意向に沿って、学生への奨学支援、国際交流、

寄付金の募集

学術研究支援、教育環境の充実などに活用していく基金です。ご検討をお願いいたします。詳しくは、インターネットで「静岡大学未来創成基金」を検索してください。

文責：物理学科教員

三重野 哲

静岡大学の未来創成のため、皆様のご協力をお願いいたします。 「静岡大学未来創成基金」について

わたしたちの大学は、旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松工業専門学校(旧浜松高等工業学校)の統合と静岡県立農科大学の移管とともに、こんにちの「静岡大学」としてのスタートを切りました。これらの前身校では、「自由啓発」、「自由闊達」など、学生の主体性に重きをおく教育方針がとられました。

静岡大学では、「自由啓発」を発展的に継承し、今後も教育・研究・社会連携の柱として、この「自由啓発」をもとに、学生・教職員は、平和で幸福な「未来創成」をめざして、教育、研究、社会連携に積極的に取り組んでいきます。

「静岡大学未来創成基金」は、今後、こうした取り組みをさらに充実・発展させていくことを目的として創設されました。皆様からのご寄付を、学生(留学生を含む)への奨学支援、学術研究や教育の充実・発展などに活用させていただき、人材養成や社会連携等によって、社会に還元していきたいと考えております。

皆様方のご理解とご支援をお待ちいたしております。

静岡大学未来創成基金へのご協力とお願い

日頃より静岡大学の活動に対し暖かいご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本学は、自由啓発・未来創成のビジョンのもと、多様な背景・価値観を認め合い、豊かな人間性をはぐくみ、知の創成・継承・活用を推進し、人類の平和・幸福と地球の未来のため、地域社会とともに発展することを目指しています。

このため本学は、財政基盤の強化が不可欠であるとの考えから、静岡大学未来創成基金を創設し、平成24年度より広く皆様から基金へのお力添えをお願いしたいと存じます。

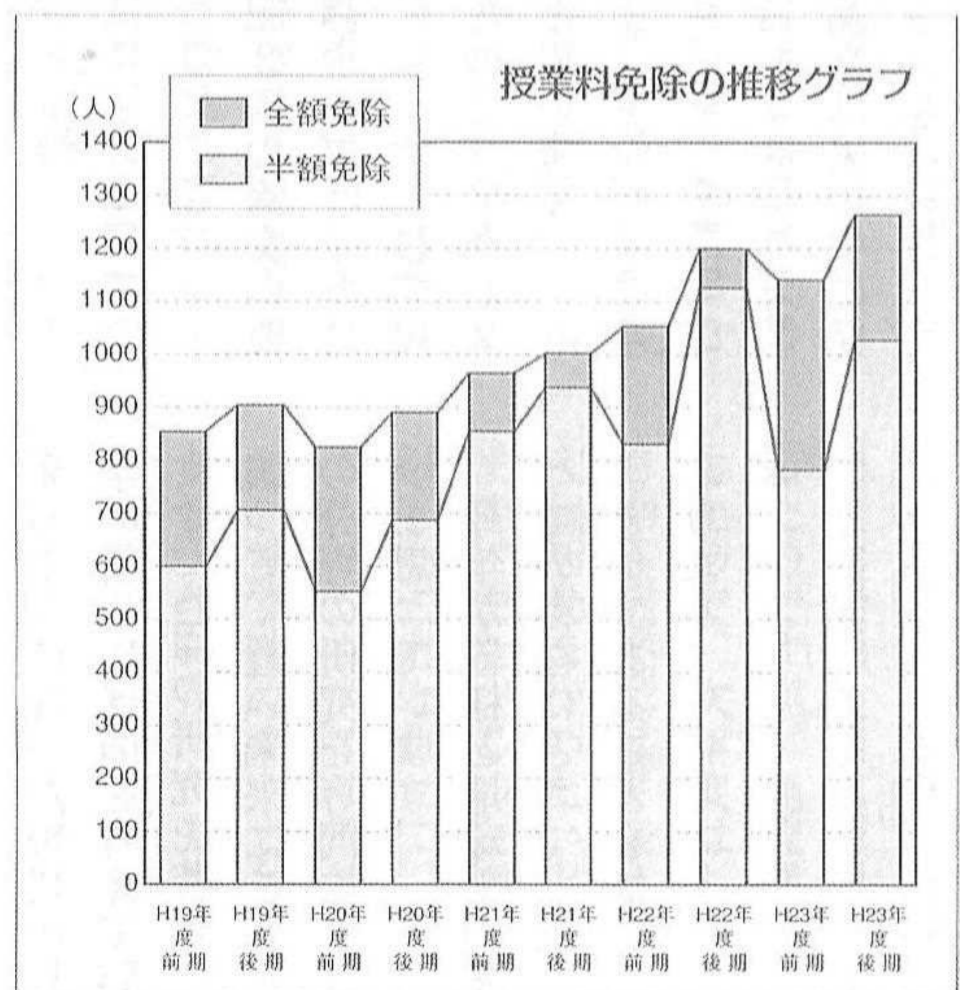
今回の静岡大学未来創成基金は、少子化・グローバル化や大学間競争が激しくなる中で、本学のプレゼンスを高めるために、学生への奨学金や海外派遣などへの支援に活用させていただき、人材育成・社会連携により広く社会に還元していくつもりでございます。趣旨をご理解いただきまして、是非ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。



静岡大学長 伊東幸宏

※本学学生への奨学支援の状況について

授業料免除申請者数・許可者数共に年々増加傾向にあり、経済的支援を必要とする者の割合が増えています。



SSCは……

静岡大学に興味を持つ人が集い、ひとつになることができるクラブを目指し、サポーターのみなさんに支えられ応援をしていただき成長していきたいという想いから誕生しました。

静岡大学の身近な情報をSSCから皆様にお届けしていきます。静岡大学を、より身近に感じられるコミュニティに参加してみませんか?

SSCは、誰でも自由に安心して参加できる静岡大学直営のクラブです。

ただ今、新規会員の募集をしています。

詳しくは、webサイトをご覧ください。

<https://ssc.adb.shizuoka.ac.jp/>
静岡大学サポーターズクラブ
〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷836



基金の概要

- ご寄附に対する税制上のメリット**
- 個人の皆様
 - ・所得税控除
当該寄附金の額(年間総所得額の40%を限度とする)から2千円引いた額を当該年の所得から控除できる税法上の優遇措置を受けることができます。
 - ・住民税控除
静岡大学への寄附金を個人住民税の控除対象としている都道府県・市区町村(例えば静岡市、浜松市)にお住まいの方は寄附金控除を受けることができます。控除の対象につきましては、お手数ですが各自自治体の税務の窓口にお問い合わせいただきますようお願いいたします。
 - 法人の皆様
寄附金の全額が損金算入できます。
- 税額控除のお手続きについて**
本学が発行した「寄附金領収書」を添えて税務署に申告してください。住民税の寄附金控除のみを受ける場合は市区町村に申告してください。

- ご寄附の方法**
- ①郵便局窓口からのお振込み
本学所定の「払込取扱票」によりお振込みいただけます。なお振込手数料は必要ございません。
【口座名義】 国立大学法人 静岡大学
【口座番号】 ゆうちょ銀行 00800-7-170290
 - ②クレジットカードによるお払込み
本学ホームページよりクレジット決済がご利用いただけます。
<https://www.shizuoka.ac.jp/fund/>
 - ③郵便局以外の金融機関からのお振込み
【口座名義】 国立大学法人 静岡大学
【口座番号】 三井住友銀行 あじさい支店(954) 普通 1078105

お問い合わせ
静岡大学 未来創成基金事務局
〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷836
TEL 054-238-5073
※電話受付 10:00~16:00(土・日・祝日を除く)
FAX 054-238-8448
E-mail kikin@adb.shizuoka.ac.jp

静岡大学サポーターズクラブ メールマガジンについて

静岡大学では、一昨年、東日本大地震の余韻が覚めやらぬなかで、「多角的な災害教訓から静岡の防災を考える、平成23年度 防災・日本再生シンポジウム」が、静岡、沼津、浜松で開催されました。

そのシンポジウムの内容は、以下のとおりでした。

□2011年10月16日(日) 静岡会場(静岡商工会議所会館・5階ホール)
基調講演1「静岡県内における津波堆積物調査について」
基調講演2「歴史地震に学ぶ大切さ―東日本大震災と関東大震災」
パネルディスカッション
□2011年11月5日(土) 沼津会場(沼津市立図書館・4階視聴覚ホール)
基調講演1「自然を深く知ることは、一歩進んだ防災に繋がる」
基調講演2「津波災害の特徴と防災対策」
パネルディスカッション
□11月6日(日) 浜松会場(プレスタワー・17階静岡新聞ホール)
基調講演1「地震と津波に備える」
基調講演2「人からはじめる防災・減災」
パネルディスカッション

静岡県は東海地震の危険性が指摘されるなかで種々の防災対策が講じられ、ハード、ソフト両面での成果が上がっております。しかし、ともすれば地震災害に対する関心に偏りがちとなる面もありません。この

静岡県は東海地震の危険性が指摘されるなかで種々の防災対策が講じられ、ハード、ソフト両面での成果が上がっております。しかし、ともすれば地震災害に対する関心に偏りがちとなる面もありません。この

このようなシンポジウムや講演会など、時宜に合致したテーマで開催されていますが、「静岡大学サポーターズクラブ」に入会すると、これらの情報がタイムリーに提供されます。

シンポジウムでは、静岡大学防災総合センターを結集軸とした多様な人材により、地震、津波、火山、豪雨などさまざまな災害について、理工学的・社会的な幅広い立場から話題提供を行い、静岡県を中心とした地域防災の今後について考えたいものです。

シドニー生活

佐津川貴子

静岡大学生物地球科学科に2003年入学、2007年に大学院へ進学し、2012年に博士課程を修了した佐津川貴子と申します。地球科学科の道林研究室に7年間在籍し学位を取得した後、静岡大学防災総合センターで増田センター長のもと半年間学術研究員として在職し、昨年10月にマツコリー大学（豪州）にResearch Associateとして着任しました。シドニーライフを始めてはや2ヶ月が経過しましたが、新しい環境に慣れるのと引越し等々であつという間に過ぎてしまったように思います。

着実にシドニー探索を進めています。シドニー到着後の2ヶ月間は、大学院生用に大学が借り上げているアパートに入居させて頂き、オーストラリア人、ペルー人、ロシア人の3人の大学院生と一緒にシェアしていました。生活習慣は異なるものの、過半数が留学生で同じような境遇の者であり、みんな良い方々で毎日楽しく生活していました。しかし、これは大学院生用のため2ヶ月で退去しなくてはならず、ついに自力でアパート探しをしなければ!と思つていたところ、ちょうど同僚の知り合いが引越すとのことで、そこへ移る事にしました。昨日、引越しが終わつて、この原稿を書いているところです。大学、駅、大型ショッピングセンターが徒歩10分圏内にある便利などところで、当面住むには問題なさそうです。

なりました。物価が着実に上昇し続けているオーストラリア。家賃も度肝を抜かれるくらい高く、学食のランチでも軽く10ドルは下らず。それでも、新鮮食品は割とお手頃な価格なため、自炊をしていけば、物価の高さをそれほど感じません。相変わらず、シドニーっ子が何をしゃべっているのか聴き取れないですし、車内アナウンスが全くないバスは複雑怪奇でも、これでもかというくらいにクリスマス商戦がやつと明け、早朝の静けさの中、鳥が賑やかに鳴き始めて、緑豊かなキャンパス近辺を散策すると、恵まれた



幾何学、集合論、多様な空間概念に對し、統一的な視点を提供するものと云われている。この小誌の題の意味は察するに、哲学知の様々な概念に對し統一的な解釈の視点を提供しようとするものと、現代数学の意味からだが勝手に解釈している。

友人は本年3月発行の小誌のなかで、ハイデッガー「時間と存在」講演録を邦訳している。20世紀初頭、ニユートンの決定論的な古典力学から相対論、量子力学の新しい現代物理学が芽生えた。ハイデッガーは、不確定性理論などこの時代の現代物理学の影響を受けて、現象の存在の認識に對する課題を論じている。存在を人が認識しているのではなく人が認識したものが存在という、謂わば人間原理に基づく逆転の視点を提供する。

さて、20世紀半ばの戦後に新制大学が設立されて早や半世紀有余が経つ。この間、世界は大きく変貌し様々な体験をした。東西冷戦終結からBRICs新興国台頭、経済金融のグローバル化、更には昨年が続くアラブの春と西欧の金融危機。国内も同様であり、昨年は東日本大震災に続き原発事故があり力オスの様相である。この半世紀有余の世界は、これまで人類が経験したことない短期間で急激な変貌をあらゆる分野で遂げている。

えるようになった現代の哲学の新しい展開を考えています。CFPの研究を若手に譲って、近い未来にこちらの分野の研究を専門にしたと思つていきます。

今年が皆様と地球上のすべての存在にとつて、よりよき年であることを祈つておひま。

*
1.H.Kozima, "Characteristics of Solid-State Nuclear Track Detectors for Heavy Charged Particles-A Review," Proc. JCF13 (to be published).
2.H.Kozima and M.Tada, "Emission of Charged Particles in the Cold Fusion Phenomenon," Proc. JCF13(to be published).
3. H. Kozima, "Cold Fusion Phenomenon in Open, Nonequilibrium, Multi-component Systems - Self-organization of Optimum Structure," Proc. JCF13 (to be published).

静大在学中は、主に日本列島から産出するマンントル捕獲岩を用い、最上部マンントルの構造発達過程に関する研究をしました。そもそもマンントルは、陸や日本列島のような場所では地下30kmよりも深いところにあり、私たちは直接手にする事ができません。しかし、火山のマグマが噴出する際に、地下深部にある火道（マグ

海外生活は、静大在学時代のフランス留学（モンペリエ第2大学）に続き二度目ではありますが、やはり、身寄りもない異国の地で暮らすことには多少なりとも不安がありました。幸運にも、ボス夫妻（Prof. Suzanne Y. O'Reilly & Prof. William L. Griffin）や、以前国際学会やモンペリエ留学時代に知り合った研究者の方々、大学のスタッフや研究室の秘書さんなど、心強いメンバーに囲まれ恵まれ、今日に至っています。

ただいま、南半球は夏真っ盛り。真夏のクリスマス、ニユイヤーを迎えました。12月には、理学部主催、地球科学教室主催、研究チーム主催など、大学内でのクリスマスパーティーが立て続けにありました。ちょうど、年末&年度末で、休暇前の忘年会という雰囲気でしょうか。新年の行事ははつきり言つて皆無ですが、シドニーといえばニユイヤー（大晦日）の花火が有名で、観客動員数160万人を誇り、海外からもわざわざ来られるのだとか。今年知り合いのついで、花火の全貌を見渡せる少し離れた海岸から、バーベキューをしながら鑑賞し、翌日2日から早速仕事初めに

青春を同じ学舎で共に過ごした皆さんには、世界はどのように映つたのだろうか。来年2013年5月25日に新宿のホテルで静大同学合同（東京地区）の同窓会が企画されている詳細別紙。十人十色の多様な空間が織りなされるものと期待される。多くの同窓が声をかけ合い参加し、おのおのの楽しく愉快な再会を願う。...

これは250年前に熱機関が発明され（1765年ワットの蒸気機関）、それを追つてその85年後に熱力学が完成した（クラウジウスの第2法則）経緯を彷彿とさせます。現象論的なアプローチがますます有効性を示しております。

また、時間の問題の考察から、哲学がその時代の科学の地平で制約されてきたことを再認識しました。人間の問題が科学的に取り扱

我が家の裏を流れる薬科川の岸で



2012.12.14 理学部主催のクリスマスパーティーにて

活の立ち上げは想像した以上に複雑で、かなりの時間を費やしましたが、皆さんに助けて頂き、本当に感謝しています。研究室の同僚の方が、「何かあったらいつでも言つてね」と言つてくれますし、休みの日となれば、同じ研究室のメンバーやアパートのシェアメイトが外に連れ出してくれ

「知のトポス」という哲学小誌が新潟にいる静岡時代の友人から送られてくる。トポスは、数学では空間を定義する新しい概念であり、

2013年 元旦
昨年中は色々御世話になりました。本年もよろしくお願ひいたします。

今年は3月に喜寿を迎えるというめぐり合わせになつていますが、幸いなことに細々とはありますが、常温核融合現象の研究を続ける意欲と体力を維持することができております。

昨12月8、9日に名古屋で開かれたJCF13に3編の論文を発表しました*。これらの論文の要旨は次のJCF13 Websiteに掲示されて

◎会の名称及びロゴマーク、「同窓生の窓」原稿を募集しています。

連絡先
〒422-8529
静岡市駿河区大谷836
静岡大学
理学部同窓会事務局
E-mail: scialm@ipc.shizuoka.ac.jp

環境だとつくづく感じています。セミナーやワークショップに参加したり、徐々に知り合いが増えつつある中で、吸収すべきたくさん新しい知識が次から次へとやってきます。これらの情報が消化不良とならないように、じっくり反芻しながら、研究に励みたいと思



頌春

小島英夫

2012年 理学部ニュース

2012年理学部ニュース

- 2012. 4. 4 入学式
- 2012. 4. 10 新しい講義「静岡県における防災・減災と原子力」を開講
- 2012. 9. 19~21 宗信佳那子さん（理学研究科修士課程2年）が第23回基礎有機化学討論会でポスター賞を受賞
- 2012. 12. 15 清水扇丈教授が福原賞（函数方程式論分科会）を受賞
- 2013. 1. 26 大野悟志さん〔創造科学技術大学院博士課程2年〕・鈴木雄太郎講師が日本古生物学会優秀ポスター賞を受賞
- 2013. 2. 15 山本歩准教授と吉田昌史くんら（化学科）の論文がJournal of Cell Biologyのハイライト論文に選出
- 2013. 3. 17 学位記授与式

□大野悟志さん（創造科学技術大学院博士課程2年）・鈴木雄太郎講師が2013・1・26 日本古生物学会優秀ポスター賞を受賞



本学創造科学技術大学院〔博士課程2年：環境・エネルギーシステム専攻〕の大野悟志さんと、鈴木雄太郎講師（地球科学科）が、平成25年1月26日に開催（会場：横浜国立大学）された日本古生物学会ポスター発表において、優秀ポスター賞を受賞しました。

タイトルは、「定住性イレニモルフ形態型三葉虫種 *Stenoparceia oviformis* の

視覚特性」です。

□清水扇丈教授が福原賞（函数方程式論分科会）を受賞

2012・12・15

本学理学部（創造科学技術研究部）の清水扇丈教授が、平成24年12月15日に函数方程式論分科会から2012年度「福原賞」を受賞しました。

福原賞は、函数方程式論分科会の設立時より尽力された、故福原満洲雄教授の功績にちなみ、函数方程式論分科会で主に活動する日本数学会員研究者のうち、特に優秀な業績を挙げた新進・中堅の研究者に授与されるもので、清水先生の放物型方程式の最大正則性原理と流体の自由境界値問題の研究が評価されたものです。

□宗信佳那子さん（理学研究科修士課程2年）が第23回基礎有機化学討論会でポスター賞を受賞

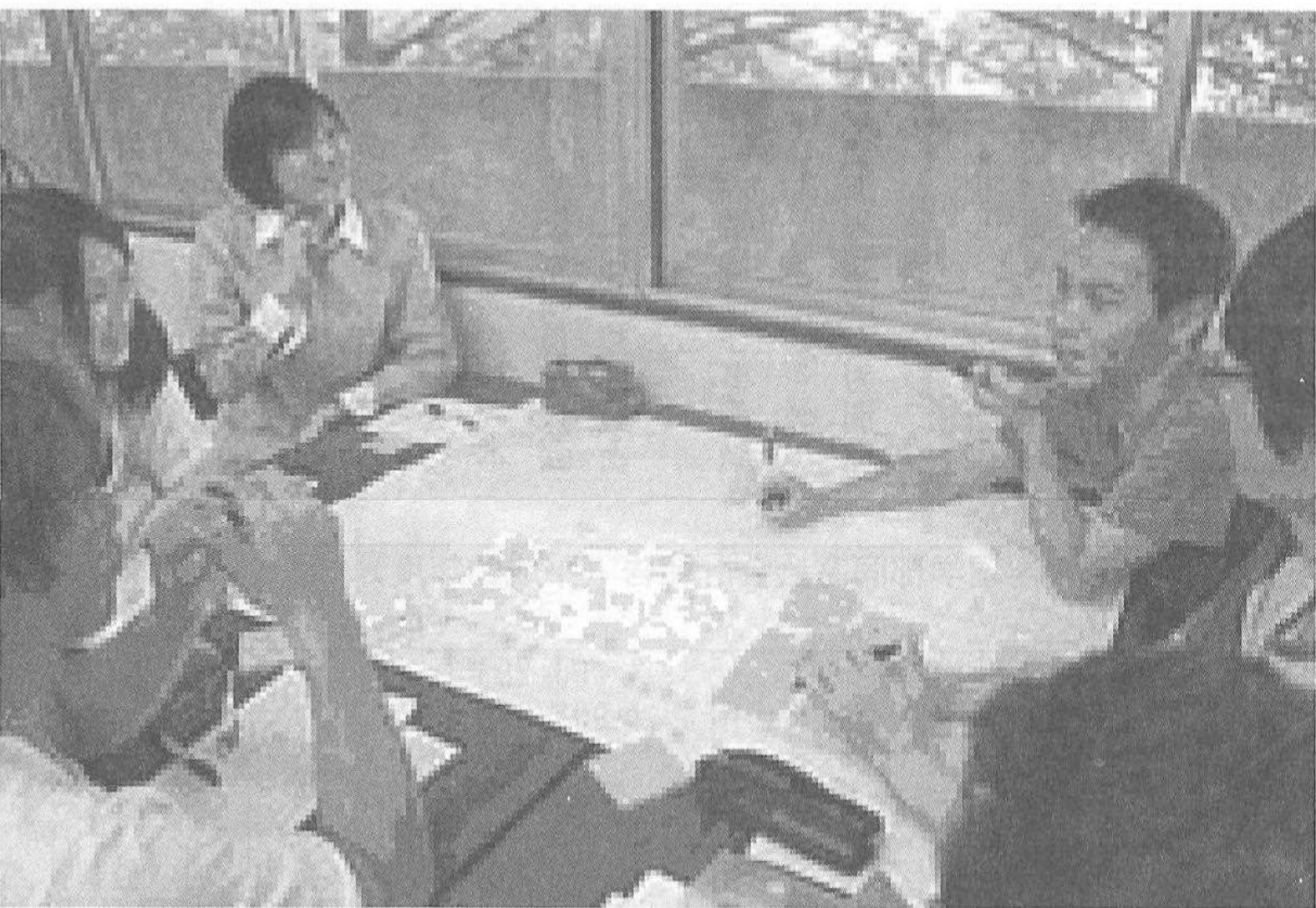
2012・9・19~21

本学大学院理学研究科修士課程2年の宗信佳那子さんが、平成24年9月19~21日に京都テルサ（京都市）で開催された第23回基礎有機化学討論会でポスター賞を受賞しました。宗信さんの講演タイトルは「超分子ヒドロゲルを担体とした未変性タンパク質の電気泳動」

で、超分子ヒドロゲルを用いた電気泳動法を開発し、未変性タンパク質を活性を保持したまま分離できることを明らかにしました。本討論会は、多様な研究領域の有機化学者700名以上が集まる会合であり、今回は審査対象ポスター約250件の中から30件がポスター賞として選出されました。

□エネルギー環境ニュース
電気新聞
2012・8・2

東海地震が想定され、原子力発電所が立地する県の大学として、防災・減災の強化に向け、災害時に冷静な判断のできる人材の育成が必要なのではないか。静岡大学は、今年4月から新しい講義をスタートさせた。コミュニケーション能



グループで討議した結果を付せんに書き込み整理する。学生同士で積極的な議論が交わされた。

力の醸成に主眼が置かれ、防災の基礎知識から始まり、災害への対応、合意形成のあり方などを、討論を通して身に付けていく。7月に行われた授業の様子を取材した。（堀江 剛）

静岡大学が始めた講義の名称は「静岡県における防災・減災と原子力」。講義は全15回で3~4年生を対象。同一内容の前期コースと後期コースがあり、前期は約80人が履修した。討論の時間を重視した点が特徴で、カリキュラムの序盤、終盤に少人数でのグループ討論を行う。

講義全体の内容は、リスクコミュニケーション、津波災害の基礎といった防災の基本的な講義から、浜岡原子力発電所の安全対策、県の原子力防災・減災体制、報道のあり方など。事業者や自治体、マスコミなどの担当者を招いての講義も行った。報道を巡っては、メ

経営者には被災時に宿泊施設の提供を求めたい」「電力会社は、廃炉措置の検討もしなければならない」

学生たちは、地震、津波などの災害がいつ、どこで起こったかを想定した上で、具体的な対応を付せんに書き込む。「事前の準備が必要なこと」は青色、「災害時に必要な対策・対応」は黄色、「そもそも問題点」は赤色、と付せんの色を分ける。さらに横造紙に事前の対策、災害時対応、中長期的な課題について時間軸を書き入れ、付せんに張り付けていく。グループごとに話し合いながら、論点や課題を整理していく「ブレインライティング」という討論手法を取り入れた。

カリキュラムを主導した理学部の大矢恭久准教授は「異なる立場の人間が互いに歩み寄り、相手の立場を考えた見方ができるように

なること」が授業の狙いと説く。災害時には利害関係者間のコミュニケーションが重要なため、多様な立場の人の合意形成をどう進めるべきか、討論を重視して学ぶという。学生には「受け身にならず、まずは話し合ってみる。とにかく自分の意見を言葉にすること」を求めた。

静岡県御前崎市には、中部電力浜岡原子力発電所が立地するが、「県民全体としての防災・減災に対する認識がまだまだ低い」という。これまでも、理学部では原子力発電の仕組みやエネルギーセキュリティ、放射線などについての講義は行っていた。昨年の東京電力福島第一原子力発電所事故を受け、地元の大学として全学部を対象に防災と減災に絞った講義を新設すべきと判断。経済産業省の補助事業「原子力人材育成

プログラム」に応募し、採択された。

昨年10月から大矢准教授らが中心となり、静岡県、静岡市、中部電力、静岡新聞社と連携し、カリキュラム作りを進めた。テキストは、産官学のそれぞれの担当者が執筆した。

福島事故では、誤った知識、偏った報道や風評被害などで原子力発電所の立地地域の住民は動揺した。大矢准教授は「将来の地域のリーダーとして、このカリキュラムが役立てば」と学生への期待を込める。（本紙8面より）

□山本歩准教授と吉田昌史くんら（化学科）の論文がJournal of Cell Biologyのハイライト論文に選出

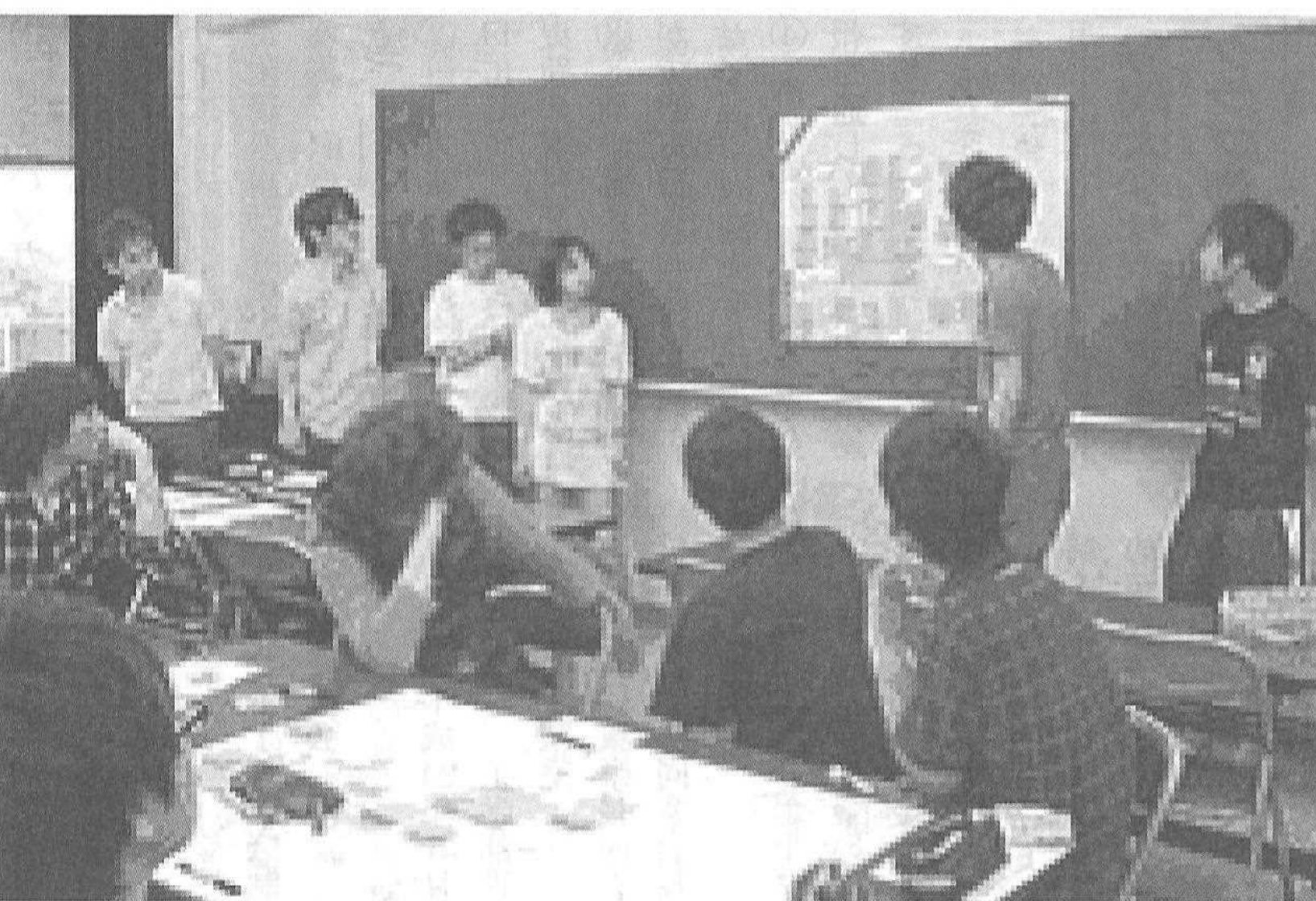
2013・2・15

山本歩准教授と吉田昌史くんらの論文がJournal of Cell Biologyの2013年2月18日号（オンライン版2月11日）に掲載された（<http://jcb.rupress.org/content/early/2013/02/05/jcb.201207168>）。

ハイライト論文に選出されました

（<http://jcb.rupress.org/content/early/2013/02/05/jcb.20041111>）。

吉田君らは減数分裂において染色体末端部のテロメアに「テロセントロゾーム」という新たな構造体が形成され、この構造体から形成される微小管繊維によってテロメアが集合することを発見しました。減数分裂は精子や卵子の形成時に起こる細胞分裂で、この発見は次世代の個体への遺伝情報伝達機構の理解に大きく貢献すると考えられます。



討論の結果を発表する学生

合同役員会 議事録

合同役員会 議事録I

日時 2012年11月17日
日(土) 12:30~13:30

場所 静岡大学理学部大
会議室

出席者 会長他、6名

議題

(1) 静岡大学サポータークラブ(SSC)の取り扱いについて

● 大学の計画では、サポーターズクラブ(会費無料)への入会申込書(学生本人と保護者分2枚)を、合格通知並びに入学諸手続の書類に同封して送付したいとのこと。

● 入学時に支払われる終身会費の納入率が低下している現状(理学同窓会、文理工同窓会ともに60%程度)なので、各学部同窓会は対応に苦慮している。

○ 理学同窓会としては、サポーターズクラブ(会費無料)への入会申込書は保護者分のみを、合格通知並びに入学諸手続の書類に同封して送付することとした。

○ 当面の対応としては、役員会の議決事項として、平成25年度の新入学者からの対応とする。継続審議とし、次回役員会までに、理学部としての理解を取りまとめる。会長が理学部長と協議し理学部としての取扱いの統一見解を取りまとめ、事務局長等の事務方に周知させ、大学当局に確認をとる。

◆ 趣旨は下記の通り。

① 静岡大学サポータークラブ(SSC)と静岡大学未来創成基金とは当面のところで独立した活動である。

② 会報の配布増加している状況なので、将来の情報提供のスタイルとして、メール、スマートフォン等の電子媒体を利用する制度への転換を図る必要がある。

③ 入学時に同窓会員となる制度に切り換えているので、メールアドレスを同窓会が大学当局と共有できるようなシステムを作れば、管理・運用が楽になる。

④ 卒業生に配布する会報への、静岡大学サポータークラブ(SSC)への入会勧誘がしやすくなる。

⑤ 在校生の就職先確保のため、会報の配布先を文理学部理科ならびに旧制静岡同窓会の会員約1600名に拡げたい。

(2) 静岡大学理学同窓会東京支部の立ち上げについて

● 静岡大学全学同窓会(東京地区)が下記の通り開催されます。

○ 理学同窓会としては、平成25年5月25日(土)15:00~19:00 場所 ハイアットリゾネンシー東京(新宿)

● 現在、東京地区在住の山本富嘉君(66数学)、長谷川隆義(67生物)、佐藤繁夫君(70数学)が全学同窓会(東京地区)の実行委員として作業をしてくれています。

○ この開催に併せて、静岡大学理学同窓会東京支部の立ち上げをしたい。

○ その運営(理学部関係者への通信費・来賓交通費等)について、同窓会本部からの支援を行いたい。全員合意 欠席者からの

異論もなし。

(3) 理学同窓会の次期役員候補について 役員全員の意志を確認の上、候補を決定する。

● 現在、新しい役員を委任していない事と役員の年齢が上昇している問題がある。

● 静岡近郊在住で、活動に協力を要請できる若手の登用をすることが、緊急の要請事項となっている。

● 総会開催までに次期役員候補を選任しておかなければならない。

○ 今年総会を開催する予定にしていたが、準備が整わないので総会を1年延期したい。

○ 新役員(理事)の候補者検討中 候補者の意志を確認すること。

(4) その他

① 静岡大学全学同窓会(東京地区)への理学部の招待者候補 出席者全員合意。

理学部長、同窓会長、石川勝利先生(生物)、米山徹先生(物理)、松田裕先生(数)、奥村保明先生(化学)、菅沼英夫先生(放射線)、土隆一先生(地球科学)

② 理学部IPに下記事項の常設掲載欄を設ける件 出席者全員合意。

1) 理学部・理学研究科卒業生からの就職に関する体験談

取りあえずは、寄付講義の講師に頼む?

2) 理学部・理学研究科卒業生からの企業紹介(有料/掲載期間1年/学生向けサイト)

③ 同窓会報のニックネームについて

● 会報のニックネームをNo.21号の前後に募集したが応募がないので、定まってい

いない。もう一度募集したい。

○ 旧制静岡高の同窓会が解散し、来年の3月の最終刊(99号)で廃刊となるので、「龍爪」という名称を引き継ぐというのどうか。

※ この件に関しては、旧制静岡高の同窓会の有志が「龍爪」の会を存続させる意向とのことなので、当面保留とする。

合同役員会 議事録II

日時 2012年12月29日
日(土) 17:00~18:30

場所 爽之介

出席者 会長他、8名

議題 静岡大学サポータークラブ(SSC)の取り扱いについて

1 会員

1) 規定 規則第4条

(1) 規則第2条の目的に賛同して入会した卒業生、個人、法人および団体。

(2) 本学の教職員及びび学生

2 入会

1) 規定 規則第5条

「SSCに入会を希望する者は、所定の入会申し込み書を提出し入会手続を行うものとする。ただし、本学の学生及び教職員は入会手続を経ることなく会員とみなす。」

2) 静岡大学SSC事務局

「同窓会加入案内」と別途にSSC入会案内をして、入会希望する・とないを確認する」「新入生向け入会案内」と「保護者向け案内」2通を入会案内に同封する。

3) 理学同窓会

① 同窓会加入案内に、「同

窓会員は原則としてサポーターズクラブの会員となる」と「SSC事務局からSSCメールマガジンが送信される」旨を記載する。「新入生向け入会案内」は入学案内に同封しない。

② 平成25年度から、学生のメールアドレスを学務係からSSC事務局に連絡できることとする。

③ 卒業生向けの案内 同窓会報にSSCの存在を広報し、会報送付時に入会申込みのしがきを同封して、入会の促進を図る。

④ 在校生(平成24年度までに入学)向けの案内 同窓会報にSSCの存在を広報し、卒業時に渡す会報に入会申込みのしがきを同封して、入会の促進を図る。

① SSCマガジンを通して、理学部・理学同窓会の活動を広報する。(例えば、サイエンスカフェ、同窓会寄附講座講師募集、総会の案内、科学講演会の案内など)

② 「未来創造基金」を窓口にして、研究費用・設備更新の寄付を集めたい。

③ 理学部に特化した寄付ができる旨を会報にて知らせる。

④ 寄附金の用途・実績を会報を通して同窓会員に伝達する。

以上

第1回サポーターズ制度設立準備委員会

日時 平成24年9月13日

場所 静岡大学理学部管理棟5階大会議室、工学部管理棟2階大会議室

出席者 伊東学長他大学関係者、各学部同窓会長

議題

1 静岡大学サポーターズクラブについて

2 未来創成基金について

「SSCは、本学の教育・研究・社会連携活動等を支援し、当該活動を通じて社会の発展に貢献することを目的とする。」

2) 理学部・理学同窓会として

係者、各学部同窓会長 議題 本学のサポーターズ制度設立等について

第2回サポーターズ制度設立準備委員会

日時 平成24年5月24日

場所 工学部管理棟1階TV会議室

出席者 伊東学長他大学関係者、各学部同窓会長

議題

1 静岡大学サポーターズクラブ(仮称)について

2 未来創成基金(仮称)について

静岡大学サポーターズクラブ等の審議経緯

第1回サポーターズ制度設立準備委員会

日時 平成24年3月26日

場所 静岡大学理学部管理棟5階大会議室、工学部管理棟2階大会議室

出席者 伊東学長他大学関係者、各学部同窓会長

議題

1 静岡大学サポーターズクラブについて

2 未来創成基金について

係者、各学部同窓会長

議題 本学のサポーターズ制度設立等について

第2回サポーターズ制度設立準備委員会

日時 平成24年5月24日

場所 工学部管理棟1階TV会議室

出席者 伊東学長他大学関係者、各学部同窓会長

議題

1 静岡大学サポーターズクラブ(仮称)について

2 未来創成基金(仮称)について

係者、各学部同窓会長

議題 本学のサポーターズ制度設立等について

第2回サポーターズ制度設立準備委員会

日時 平成24年5月24日

場所 工学部管理棟1階TV会議室

出席者 伊東学長他大学関係者、各学部同窓会長

議題

1 静岡大学サポーターズクラブ(仮称)について

2 未来創成基金(仮称)について

一般会計		2012年3月31日	
収入の部			
前年度繰越金	3,356,299		
終身会費	2,901,000		
寄付	2,000		
記念誌発行	0		
名簿代	0		
受取利息	70,000		
雑収入	19		
合計		6,329,318	
支出の部			
印刷費	1,409,948		
通信費	432,428		
会議費・旅費交通費	230,740		
事務用品費	38,285		
送金手数料等	24,740		
備品代	13,702		
ホームページ作成	0		
特別講座支援	200,000		
学術集会等支援	0		
事務手数料	104,750		
総会費	0		
全学同窓会負担金	0		
特別支出	368,200		
慶弔費・その他	67,425		
合計		2,890,218	
差引残高		3,439,100	

印刷費:会報・卒修論文抄録集・他
※特別支出は、被災学生への特別奨学金寄付100,000円と記念碑台座工事268,200円
以上報告いたします。
平成23年3月31日 会計担当理事 浅野安人
監査の結果、報告のとおり相違ありません。 監査 松山初男 野口和廣

事務局だより

○今年の5月に、全学同窓会(東京地区)が開催されます。毎年、静大祭と同時開催している理学部ホームカミングデーとは違い、学部・学科の壁を越えて、恩師の先生や先輩方に会えるよい機会です。ご参加をお待ちします。

○昨年は、iPS細胞の研究で京都大学の山中教授がノーベル医学生理学賞を受賞されたり、東日本大震災を教訓に地震防災・地質調査、原子力発電に代わる自然エネルギー事業が目されるなど、科学に関連した話題が注目されています。また、今年に入りロシアに隕石が落ちたユースはとも驚きました。ことは、宇宙に関する話題も盛り上がりそうです。私も空を見上げる機会を少し増やそうと思います。

○理学部は、もうすぐ設立50周年を迎えます。大学内の校舎の整備が次々進み、落ち着いた校舎は、開放的でより学業に力を注げる空間となつていきます。

○静岡市内では、東静岡駅周辺が開発ラッシュを迎えています。高層タワーやショッピングセンター。新しい陸橋が完成し、静岡市中心部はより賑やかになりそうです。

●同窓生の皆様に住所や勤務先、連絡先(電話、E-mail)等の変更等がございましたら、同窓会事務局までご一報ください。また、同窓会主催、共催の催し物のお問い合わせも同窓会事務局までどうぞ。

●同窓会事務局員も、現在の担当になって今年で5年目を迎えます。今年度も同窓生の皆様へ学内の情報を精一杯お届けします。

(事務局 松浦)